



イラスト：佐藤アモール陽子

着倒れ京都人に送る。

ササイな情報

ニューヨークから御機嫌で帰ってきたら、いきなり京都駅でキレてしまった。何じゃ、あの「はるか」のプラットホームは!!重い荷物を持って工事中の狭いホームを歩けど歩けど、改札口は見えてこないし、カートすらない。在来線に乗り換えようにも、エスカレーターは反対側の階段だと。思わず外人に「京都は今、内戦の最中か?」と尋ねられてしまった。関空から京都に辿り着くには、これしか方法がないのに、高い運賃払って、別に罪のない改札の駅員とケンカするのために外国に行ってるワケじゃないんだよ。

久し振りに何の予定もない海外。仕事も買物もせず、ブラブラと歩き回ったNY。昔、友人はNYへ行く一カ月前から縄跳びをして体力を養っていたけれど、その気持ち良くわかりません。結局10日間、NYに居て、ティファニーもメトロポリタンも行く

ず、帰ってきてから「NYどーでした」と聞かれても、「雨でした」としか答えようがない情けなき。MOMAのOX展が良かったとか、気の効いた答えがあればいいんだけど、アベニューA、Bや、観光地図に載っていないところ歩いてたんじゃ、何が楽しかったか説明しようがないもんね。「後ろで銃声がありました」となワケでもないし。特にファッションのこと聞かれても、NYにあるものはすべて日本にあるって思ってるじゃないかい。アンナ・スウィガースグレイコレクションになっていて、お土産にTシャツ買ったけれど、別に彼女のスタイルがNYを代表してるってワケじゃない。んなこと、ドードモエ工街だから、楽しいワケです。20\$札1枚持って、一日中ウロウロしてりゃ、古着のスイーツから、チャリヤー・パークのヴァージアの原版まで手に入れて、ティト・ブエンテのショウまで見られる街

です。デザイナーブランドの洋服買ってる場合じゃないよ。ナゼかは知らないが、京都で仲の良かった友達も多くは30才を前に、NYへ引越してしまっただけ。「行ってくるわ」と言ってる5年も音沙汰がないので、今回片っ端から連絡を取る。みんなグリーンカードを持っていて、みんなグリーンカードを持っている。ラッキーなのかアンラッキーなのかは分からないけれど、抽選で当たったらしい。どりで帰ってこないハズである。基盤の目が性に合うのか、気楽にやっつける。揃って懐は貧乏なので日本で騒がれるNYの情報にはウソい。最近、ソーパーに店を構えた友達は、そのビルに昔、マドンナが住んでいたことを、日本人の観光客に教えて貰ったと笑う。

NY最後の夜に、今からミラノコレクションに出発するというバイヤーとデザイナー。当然、アッパーウエストサイドのレストラン。カニを食いつつ、

たいなウエルカムランチを済ましたあとレンタカー会社へ。あとで聞いたら、半日観光とかを空港でキャンセルしてすぐレンタカーを借りることもできたんだって。ハワイは、アメリカ本土と違って、クルマものんびり走っているし、だいたいクルマのクラクション鳴らされることもないし、左ハンドル右側通行初めての人も心配無用。オアフ島は考えていたほど大きくなくて、それがホテルの密集する南岸のワイキキから、サーフィンのメッカ、ビッグウエイブで有名な反対側のノースショアまで途中ハイウェイH2を走って、下に降りたあと99号線を抜けて約1時間半で着いてしまう。メチャ近いよ。ワイキキのホテル

を朝ゆつくり出ても、途中道沿いのドルルのバイナッフルパビリオンに寄ったり、ハレイルの田舎町で、マツモトストアやミウラ商店のシェイブアイスを食べても、サンセットビーチとか泳がなければ午前中に帰ってこれます。ドルルのバイナッフルジュースが、タダだからといってガブガブ飲んで、20〜30分後にシェイブアイスを食べるのはちよつとらいでずから気がつけましょう。360度の大パノラマで広がる、バイナッフル畑が感動的です。ついスピードを出し過ぎて、ハイウェイパトロールに捕まってしまったコナーバーチブルの日本人を横目に、北へ向かうとやがて前方に海が開けてきます。これは運転して

かなり興奮します。パーチャルじゃない、本物のドライブで味わうアップダウンの醍醐味はこたえられせん。そこからはしばらくの間、海へ落っこちていくかのような錯覚でサトウキビ畑の中をまっすぐに走ります。これが日没の間なら、もう言うこと無し。とても大きい太陽が地平線に沈んでいく様は、まさに水曜ロードショーといった感じ。ちよつと古いか。ハワイへ行ったなら、中3日間のツアーでもまずレンタカー借りて日本じゃ味わえないドライブを楽しんでみましょう。ワイキキのデューティフリーショップとアラモアナのショッピングセンターだけじゃつまらないよ本当に。

【プロフィール】1959年京都生まれ。今年9月に12年間勤めたWWDジャパンの仕事を辞め、現在は今秋に大阪で行われるヴィヴィアン・ウエストウッド等が参加する国際ファッションフェスティバルの準備に忙しい。大阪コレクションの新人デザイナーのインキュベーションもサポート。

NODA TATSUYA